

沈黙の呼吸

建築・都市アミニティグループ
 (指導教員：浅野 耕一 准教授)
 B08C008 小田島 慶昌

戦争遺跡 記憶の継承 滑走路

1. はじめに

戦争は人類がもたらした人為的大災害であり、その傷痕は終戦を迎えた今も尚、根強く残ったままである。戦時中、岩手県北上市は日本最北の飛行場として開発された地域である。ここにも戦争という時代の趨勢が流れていた。

戦後、軍事施設は別の用途を持つ施設へと転換されたが、岩手陸軍野飛行場（以下、後藤野飛行場）は、長い間、滑走路という構築物によって周囲と切り離された。

やがて、工業団地として誘致が進み、現在では、周囲に巨大な工場群が立ち並んでいる。当時の飛行場の面影を残すものは何もなく、後藤野飛行場は益々周囲と切り離され、断片的に“跡地”としてただこの場所に横たわっている。

工場の誘致に伴い、後藤野飛行場跡はその記憶が薄れ、潜在的利用価値のある“跡地”という広大な土地が、有効活用されずに放置されている。今こそ、地方軍であったこの地にも戦争の爪痕を後世へ伝えるための場が必要である。

以上のことから、戦時中岩手の軍事拠点であった後藤野であった飛行場跡地に過去の出来事の死を追悼する場、今、現実にある戦争の記憶に向き合うための場、未来の平和を願う場を提案する。

2. 敷地の概要

対象敷地は岩手県北上市和賀町後藤、後藤野工業団地内の公園及び原野を選定した。工業団地の片隅に位置するこの公園は飛行場があった当時、中心に位置していた。しかし、現在その場所は飛行場の面影は全く残っておらず、小規模の公園と整備の行き届いていない広大な原野が広がっている。

公園内には秩父宮を迎えて献納式を行った際に建てられた秩父宮御成記念碑と地元住民の献金より建てられた旧飛行場の記念碑が並んでいる。この記念碑はこの地が飛行場跡であることを後世に伝えるため建立されたものであるが、周辺には工場が建ち並び、人影も少ないためその役割を果たせていないと考えられる

- | | |
|-------------|------------|
| 1 エントランスロビー | 6 資料閲覧スペース |
| 2 企画展示室 | 7 追悼室 |
| 3 地域資料室 | 8 トイレ |
| 4 常設展示 | 9 収蔵庫 |
| 5 飛行場資料室 | |

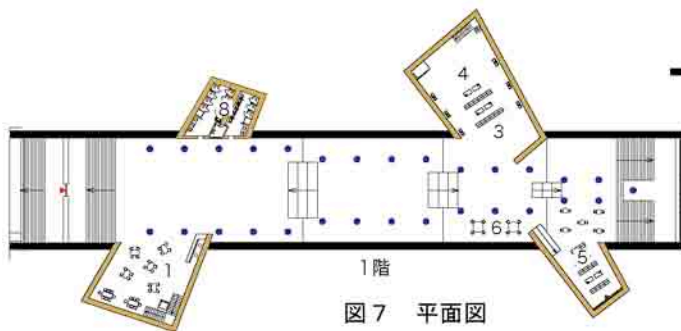


図7 平面図

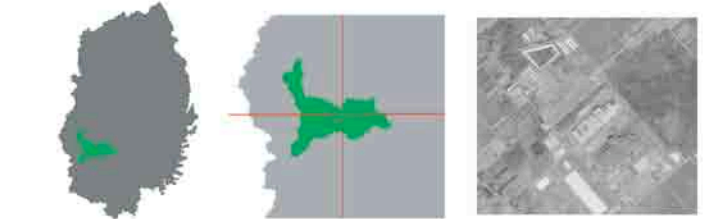


図1・2 敷地位置

図3 敷地周辺地図



図4 飛行場跡地

図5 公園内記念碑

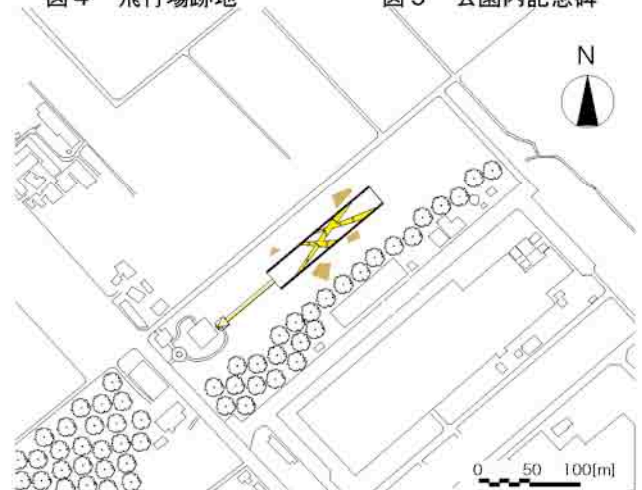
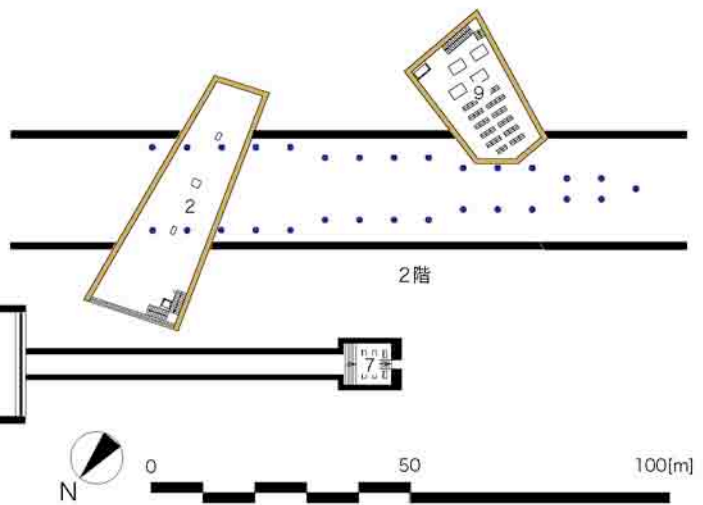


図6 施設配置図



3. 建築計画の概要

3-1. コンセプト

本計画ではその地に埋まっている戦争という事実を受け止め、未来の平和を願うという時間軸をもった場を表現する事を提案する。その際、「芸術を通した戦争への接触」一つのアクセントとしている。

戦争美術に触れる事で戦時中の悲惨さ、無情さを受け止める。次に、かつてこの地にあった後藤野飛行場と現状を照らし合わせ、戦争が他人事ではなく身近にあったものであることを自覚する。そして、今まで知らなかった歴史を知った後、死への追悼と平和の希求を経て、日常へ戻る。

3-2. ゾーニング

施設全体を滑走路と見立て、北東から南西に向かって飛び立つイメージから直線の軸を持たせる。その中心に滑走路を連想させる回廊を設け、そこに2つのヴォリュームを貫通させ、機能を配置する。回廊には両端に柱を設け、奥に進むにつれ徐々に中心に収束していく。こうする事で追悼空間への誘導だけでなく、戦争をゼロに近づけていくという意味を込める。

施設レベルは地上より低い位置に配置し、地層に埋まった戦争の記憶を見せる。

3-3. 空間構成

以下、空間を構成する機能について述べる。

(1) 企画展示

空間の導入として、過去の戦争を芸術的観点から捉える展示空間を設ける。展示はタブー視されていた戦争画などを取り上げることで各方面からの注目を集め、国内外にも影響を与える。

(2) 回廊

追悼空間までの道筋が示され、直線として最も滑走路を意識させる空間である。回廊の両端には柱が設けられており、進むにつれ徐々に中心に収束していく。

(3) 常設展示・資料室

岩手の戦争当時の写真や遺品を展示、岩手の郷土史や戦争遺跡に関する資料を集め、身近にあった戦争に触れる。同時に、この地が特攻機が飛び立った後藤野飛行場であったことを自覚させる。

(4) 追悼室

今まで知らなかった歴史を知った後、戦闘機が飛び交ったであろう空を見上げ、過去に起こった死に対し、悔やむ空間を設ける。そこは同時に、未来の平和を願う場としてそこに佇み思い馳せる独立した空間である。そして、上部から漏れる光に導かれるようにこれまでとは違う表情を持つ空を見上げながら日常へと戻っていく。

4. まとめ

現代社会において戦争は過去の出来事のように思われがちであるが、未だに世界の各地では争いや紛争は絶えない。本計画では、目に見えない戦争の軌跡を辿り、追悼と願いの空間を提案した。戦争を身近に感じてもらう事で紛争の消滅や平和を世界へ向けて発信するきっかけになるのではないだろうか。

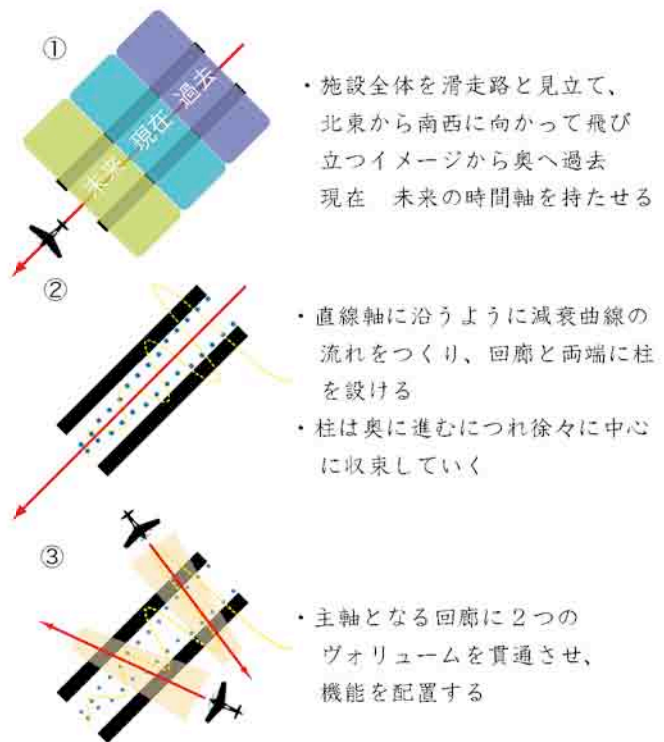


図8 全体計画ゾーニング



図9 施設全体模型

図10 回廊から奥を見渡す



図11 資料閲覧スペース

図12 追悼室から見上げる空

参考文献

- 1) 加藤昭雄：後藤野-最北の特攻出撃基地- [初版] 加藤昭雄, 平成7年3月
- 2) 加藤昭雄：岩手の戦争遺跡をあらく [初版] 熊谷印刷出版部, 平成18年
- 3) 加藤昭雄：あなたの町で戦争があった-岩手の空襲・艦砲射撃, 熊谷印刷出版部, 平成15年
- 4) 北上市博物館：戦後50年の北上を考える歴史資料展, モノグラム社, 平成7年7月20日